

交付運用報告書

スーパーファンド・ジャパン

サブファンド・システマティック・オールウェザー

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託 (円建て)

作成対象期間 (第13期) : 自 2021年1月1日 至 2021年12月31日

～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

ケイマン諸島における分別ポートフォリオを運用する適用免除有限責任会社として登録され、投資会社としてのみ活動するマスターファンドへの投資を通じて、証券市場の動静から独立した投資形態を投資家の皆様に提供するために設立されました。スーパーファンドの投資顧問会社であるスーパーファンド・キャピタル・マネジメント・インクによる、トレーディング・ソフトウェアを使用した最新の取引システムに基づき、マスターファンドは運用されます。

ここに、当サブファンドの第13期の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

	第13期末	
	円・クラス	ゴールド円・クラス
1口当たり純資産価額	47.51円	76.18円
純資産総額	188百万円	244百万円
	第13期	
	円・クラス	ゴールド円・クラス
騰落率	+10.41%	+16.82%
1口当たり分配金額	0円	0円

(注1) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、当期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注2) 騰落率は、税引前の分配金(もしあれば)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注3) 1口当たり分配金額(もしあれば)は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

その他記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.superfund.co.jp>)にて電磁的方法により提供しており、「資料ダウンロード」において閲覧及びダウンロードすることができます。

※ 当サブファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【管理会社】

【代行協会員】

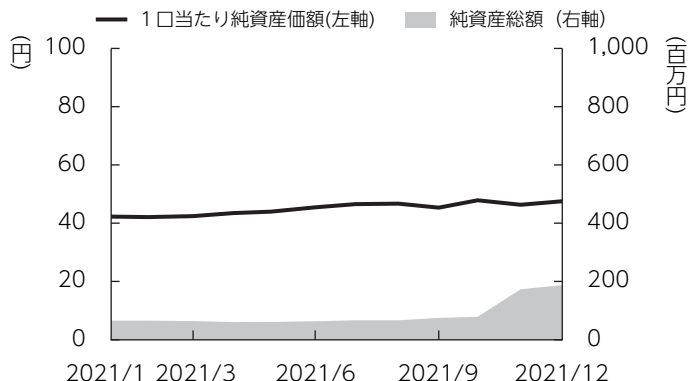
スーパーファンド・ジャパン・
トレーディング(ケイマン)リミテッド

スーパーファンド・ジャパン株式会社

運用経過

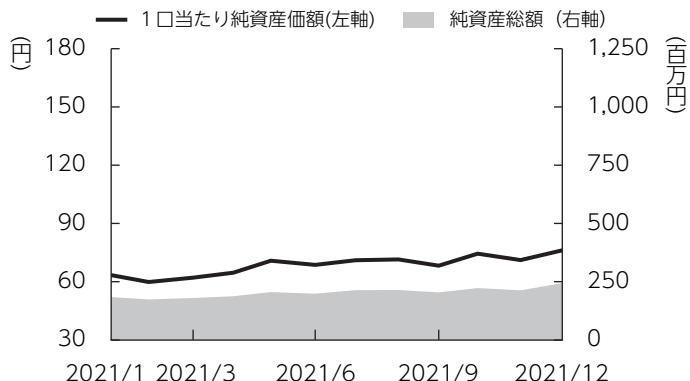
■ 当期の1口当たり純資産価額等の推移について (2021年1月1日～2021年12月31日)

円・クラス



第12期末の1口当たり純資産価額	43.03円
第13期末の1口当たり純資産価額 (分配金0円)	47.51円
騰落率	+10.41%

ゴールド円・クラス



第12期末の1口当たり純資産価額	65.21円
第13期末の1口当たり純資産価額 (分配金0円)	76.18円
騰落率	+16.82%

(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、第12期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■ 1口当たり純資産価額の主な変動要因

【円・クラス】

サブファンド・システムティック・オールウェザーは、シャープパリティ戦略を採用しています。シャープパリティ戦略では、リスク・リターンレシオが最大となる市場セグメントをポートフォリオ内で重くウェイト付けします。

スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより、株式、債券、商品市場等を投資対象として、ロングポジションのみでバランス投資を行い運用されます。よって、それら各市場の価格変動は、ファンドの純資産価額の変動に影響します。

【ゴールド円・クラス】

サブファンド・システムティック・オールウェザーは、シャープパリティ戦略を採用しています。シャープパリティ戦略では、リスク・リターンレシオが最大となる市場セグメントをポートフォリオ内で重くウェイト付けします。

スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより、株式、債券、商品市場等を投資対象として、ロングポジションのみでバランス投資を行い運用されます。よって、それら各市場の価格変動は、ファンドの純資産価額の変動に影響します。加えて、金価格に連動するようヘッジを行うため、金価格の上昇はキャピタルゲインの、金価格の下落はキャピタルロスの要因となります。

■ 費用の明細 (2021年1月1日～2021年12月31日)

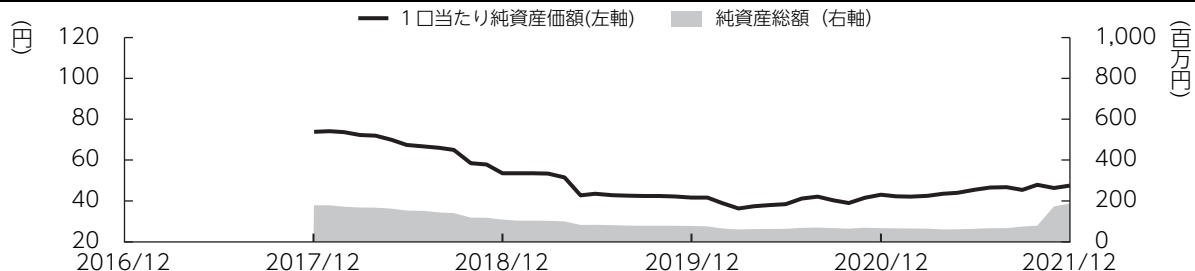
項目		比率又は金額	項目の概要
管	理 報 酬	当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカस्टディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込及び償還を含む投資活動の運用管理の対価
代	行 協 会 員 報 酬	当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬
受	託 会 社 報 酬	当サブファンドにつき年間11,000米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬
事	務	当サブファンドの事務管理及び振替代行報酬	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込に係る契約及び申込の受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	管	当サブファンドにつき年間9,793米ドル	
	理	当サブファンドにつき年間400米ドル	
主たる事務所の提供報酬	「スーパーファンド・ジャパン」につき年間6,000米ドル	当サブファンドの主たる事務所を提供することの対価。事務管理会社の関連会社に支払われる。	
販	売 会 社 報 酬	当サブファンドにつき純資産価額の年率0.6%	販売の手配を行うことへの対価
その他の費用（当期）		0.48%	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

■ 最近5年間の1口当たり純資産価額等の推移について (2016年12月31日～2021年12月31日)

円・クラス



	サブファンド設定時 2018年1月1日	第10期末 2018年12月31日	第11期末 2019年12月31日	第12期末 2020年12月31日	第13期末 2021年12月31日
1口当たり純資産価額(円)	73.84	53.57	41.66	43.03	47.51
1口当たり分配金額(円)	-	0	0	0	0
騰落率(%)	-	△27.45	△22.23	+3.29	+10.41
純資産総額(百万円)	178	108	77	67	188

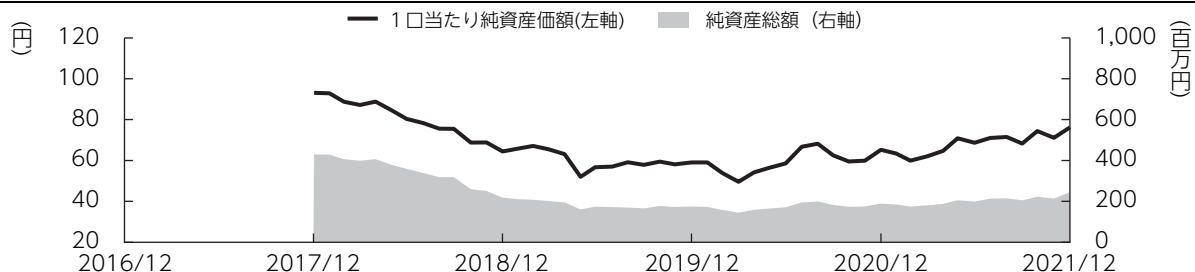
(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

(注4) 当サブファンドは2018年1月より運用が開始されたため、2017年12月以前の情報がありません。

ゴールド円・クラス



	サブファンド設定時 2018年1月1日	第10期末 2018年12月31日	第11期末 2019年12月31日	第12期末 2020年12月31日	第13期末 2021年12月31日
1口当たり純資産価額(円)	93.18	64.43	59.01	65.21	76.18
1口当たり分配金額(円)	-	0	0	0	0
騰落率(%)	-	△30.85	△8.41	+10.51	+16.82
純資産総額(百万円)	430	218	175	189	244

(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

(注4) 当サブファンドは2018年1月より運用が開始されたため、2017年12月以前の情報がありません。

■ 投資環境について

2021年が明けると、世界はCOVID-19感染の大流行に見舞われました。米国では新規感染者数が前年の夏のピーク時の4倍に拡大したことで、多くの病院が収容人数に達し、COVID-19による死亡者は1日あたり4,000人以上にまで加速したのです。しかしながら、世界市場が楽観視する理由がありました。臨床試験で非常に高い有効性を示した最初のCOVID-19ワクチンが順次出荷されつつあったことで、世界市場はパンデミック初期の底値から急回復したのです。世界の金融政策は非常に緩和的で、金利は低く、2020年からの財政刺激策によって消費者の貯蓄が強化され、さらなる刺激策が期待されました。

2021年の世界株式は、米国と欧州の株価指数が堅調に推移し、COVID-19に対する免疫力が高まっていることが証明されたため、力強いパフォーマンスを示しました。インフレ率が数十年ぶりの高水準に上昇したにもかかわらず、経済成長の力強い回復と緩和的な財政・金融政策の継続が、株式のパフォーマンスを支えました。米国では、S&P 500種指数が+26.89%、ダウ平均が+18.73%のリターンを記録しました。有効なワクチンに加え、好調な企業収益や消費者需要の増加など、その他多くの好材料が市場を支えました。欧州では、CAC40が+28.85%、ユーロストック스가+20.77%など、主要指数が上昇しました。ロックダウン規制の緩和や欧州中央銀行（ECB）の支援継続が欧州全体の支援材料となりました。アジアでは、日本の株式パフォーマンスは欧米ほど強くはありませんでしたが、日経平均株価とTOPIXはそれぞれ+5%、+8%近い上昇を見せました。一方、中国はゼロコロナ対策により、ハンセンが-13.84%、MSCI中国指数が-22.37%の損失を出しました。米国が国内証券取引所に上場する中国系証券に対する規制を強化し、北京では自国産業の取締りを強化したため、中国株には圧力がかかりました。

景気刺激策と成長予測を背景に世界の国債利回りが年間を通じて上昇したため、債券市場の利益は株式市場よりも緩やかなものとなりました。第2四半期に入ると、米国では年間インフレ率が過去10年以上なかった目標水準を大幅に上回り、FRBが予想より早い利上げを示唆したため、利回りは若干後退しました。英国では、第3四半期の金融引き締めへの期待からEU国債の利回りが上昇し、米国債の利回りは急速な景気回復が緩やかになりつつあることから先細りとなりました。年末になると、国債市場は、高止まりするインフレ、タカ派的な中央銀行の政策転換、オミクロン株の変種出現などの影響を受けました。長期国債の利回りはほぼ横ばいでしたが、FRBがインフレを「一過性」と呼ぶのをやめる可能性を示唆したため、短期国債は上昇に転じました。

コモディティー市場では、世界経済の回復が需要を押し上げ、地政学的な要因が供給を制限し、価格上昇に拍車をかけ、「エネルギー危機」の懸念を引き起こしたため、2021年にエネルギーコストが

急騰しました。金属、非エネルギー商品、農業も同様に2021年に上昇を記録しました。工業用金属は生産需要の増加により上昇しましたが、銀や金などの貴金属はマイナスのリターンを記録しました。これは、パンデミックによる経済状況の改善により、主要な安全資産としての投資家の需要が減少したことに起因しています。農産物市場では、気象災害の規模と長期化に直面し、気候変動に関するCOP26が英国で開催されたことを背景に大きな枠組みが作られ、世界的な価格高騰に繋がりました。

2021年に明らかになったように、様々な中央銀行による金融政策の決定は、主要通貨間の大きな動きを説明するのに大いに役立ちます。米ドルは、米国経済の改善とインフレの持続に支えられ、早ければ2022年3月に利上げを開始すると予想されています。FRBのタカ派的転換を受け、米ドルは2015年以来最もパフォーマンスの高い年となりました。2021年に主要通貨の中で対ドルで最もパフォーマンスが良かったのはカナダドルで、カナダ銀行が早ければ2022年1月に金融引き締めを開始するとの予想に助けられました。主要通貨の中で対ドルで最もパフォーマンスが悪かったのは日本円で、中央銀行が景気刺激策を解除するには程遠いようで、年間を通して約11%下落しました。ドルインデックスで最も大きなウェイトを占めるユーロは、ECBが超ハブ的な金融政策設定を維持していることから、+6%強の下落となりました。

■ ポートフォリオについて

< 当サブファンド >

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

< マスターファンド >

マスターファンドは、世界株式、世界債券、コモディティ、為替、キャッシュの主要な投資資産に分散投資するバランスファンドです。マーケット環境により各セクターへの投資比率を機動的にリバランスします。基本となるロングオンリー・ポートフォリオに、キャッシュ比率の引上げやクライシス・アルファの組入れにより、機動的に弱気相場や金融危機時にリスクオフをはかり、グローバルな全天候型戦略を構築いたします。

本戦略は2020年より戦略変更を行いスタートいたしました。複数の戦略を活用して機動的なリバランスを行うバランスファンドとなります。2021年はコモディティセクターの原油価格の上昇がファンドのパフォーマンスに寄与しました。一年を通して安定的なパフォーマンスを実現することができました。

■ ベンチマークとの差異について

当サブファンドにはベンチマーク及び参考指数はありません。

■ 分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

今後の運用方針

2021年7月1日付で、当サブファンドの名称はサブファンド「シャープパリティ」から、サブファンド「システムティック・オールウェザー」へと変更されました。運用戦略は変わらずシャープパリティ戦略を採用し、今後の運用方針についても、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

お知らせ

2022年4月1日付で、当サブファンドの事務管理会社が、エイペックス・ファンド・サービスズ・エスエーから、NAVコンサルティング・インク及びNAVファンド・サービスズ（ケイマン）リミテッドに変更されました。

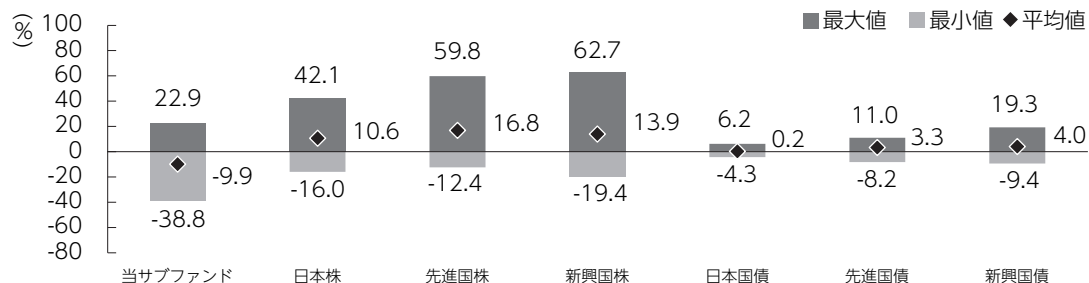
当サブファンドの概要

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）	
信託期間	信託設定日は2009年6月5日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンドの投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて運用されます。当サブファンドのマスターファンドは、投資機会及び最新の取引戦略を利用することを目的とするため、将来の投資の特性に関して事前決定された展望を持たず、一切の制限も受けません。マスターファンド投資顧問会社は、サブファンドが、上場先物取引及び各種店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）において過度の危険を冒さずにレバレッジ効果により高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンドSPCのサブファンドである分別ポートフォリオ・システムティック・オールウェザー・ファンドの利益参加シェア
	マスターファンド	株式、債券、商品市場へのバランス投資、これに加えて、ゴールドクラスは金先物
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

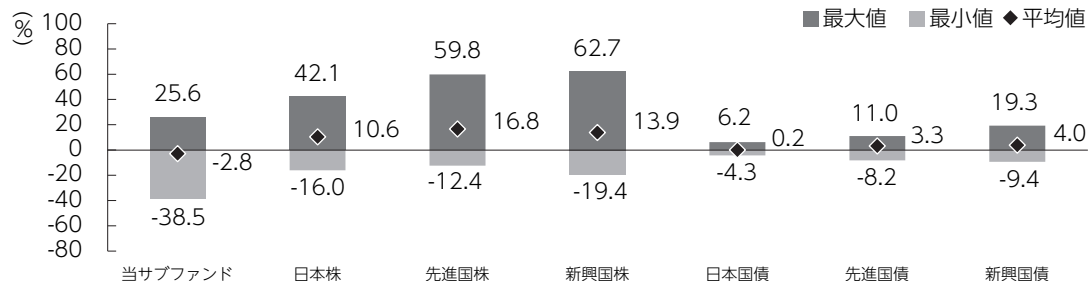
(参考情報)

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

円・クラス



ゴールド円・クラス



※ 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ 2017年1月から2021年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値をファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株 …… 東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株 …… MSCI-KOKUSAI指数 (配当込) (円ベース)

新興国株 …… MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込) (円ベース)

日本国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (日本) (円ベース)

先進国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (除く日本) (円ベース)

新興国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド

※新興国債の指数は、各月末時点の為替レートにより円換算しています。

ファンドデータ

■ 当サブファンドの組入資産の内容 (2021年12月31日現在)

【組入ファンド】 (組入銘柄数：1 銘柄)

資産の種類	組入比率
スーパーファンドSPCの株式 (分別ポートフォリオ・システムティック・オールウェザー・ファンド・クラスB 日本の利益参加シェア) (以下「SPCシステムティック・オールウェザー・ファンドの株式」と表記)	97.88%
現金、受取債権及びその他の資産	2.12%

(注) 組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。



(注1) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載されています。

(注2) 組入資産の内容は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

■ 純資産等 (2021年12月31日現在)

項目	第13期末
純資産総額	431,409,217円
発行済口数	7,144,270口
1口当たり純資産価額	60.39円

(注1) 純資産総額及び発行済口数は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

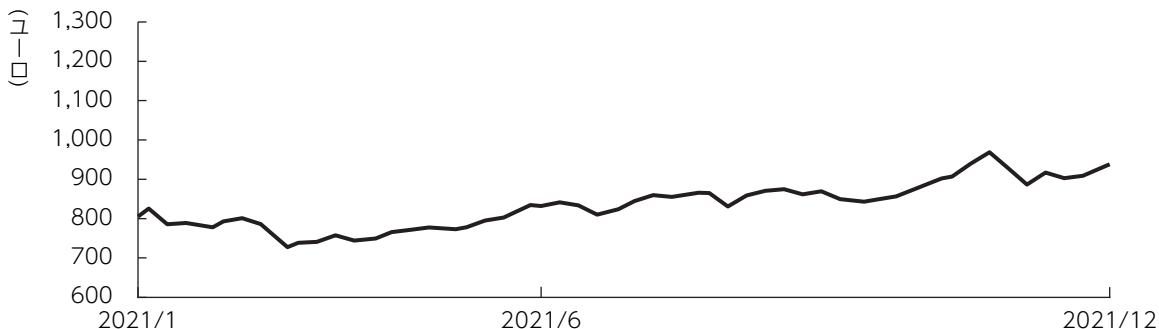
(注2) 当期中における追加設定元本額は146,200,155円、一部解約元本額は9,579,962円です。

■ 投資先ファンドの概要 (2021年1月1日～2021年12月31日)

■ スーパーファンドSPC (マスターファンド)

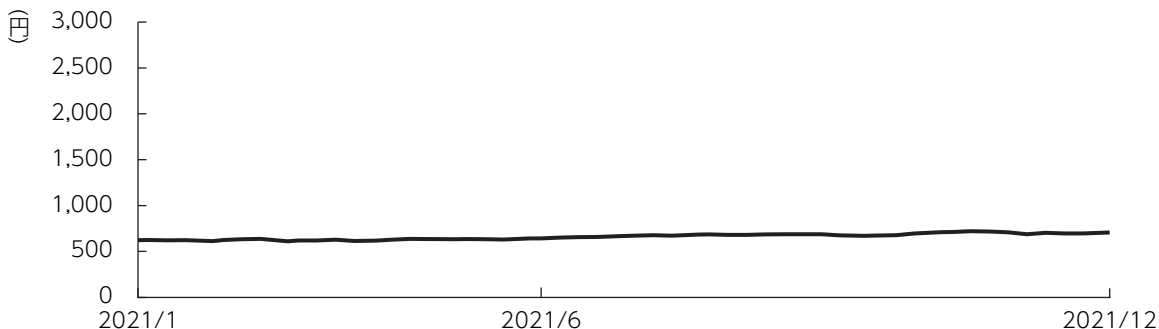
スーパーファンドSPC分別ポートフォリオ・システムティック・オールウェザー・ファンド クラスB
ジャパン (ゴールド・ユーロ)

【1口当たり純資産価額の推移】



スーパーファンドSPC分別ポートフォリオ・システムティック・オールウェザー・ファンド クラスB
ジャパン (円)

【1口当たり純資産価額の推移】



【費用の明細】 (2021年1月1日～2021年12月31日)

項目	項目の概要	
管理報酬	クラスBジャパン (円) 利益参加シェア及びクラスBジャパン (ゴールド・ユーロ) 利益参加シェアの各純資産価値の年率1.0%	
成功報酬	クラスBジャパン (円) 利益参加シェア及びクラスBジャパン (ゴールド・ユーロ) 利益参加シェアの各純資産価値の増加額のうち毎月20% (金価格の上昇のみに起因する価値増加を排除したハイウォーターマーク方式を適用)	
販売会社報酬	システマティック・オールウェザー・ファンドにおいては課されない	
事務管理報酬	最低事務管理報酬	年間14,400米ドル
	年次報告書及び監査手配報酬	年間400米ドル
	主たる事務所の提供報酬	年間1,400米ドル (事務管理会社の関連会社に支払われる)
	登録事務所の提供報酬	年間6,000米ドル (事務管理会社の関連会社に支払われる)
その他の費用(当期)	監査報酬、保管費用、その他信託事務の処理に関する諸費用 0.67%	

(注) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【保有銘柄情報】、【資産別配分】、【国別配分】及び【通貨別配分】については、マスターファンドが、世界の主要先物市場における先物を中心に運用しており、オン・バランス資産のほとんどは証拠金であり、その配分は随時変動していることから、一定の時点におけるこれらの情報を開示することに大きな意味がないため、開示しておりません。

(2021年12月31日現在)